

これまでとこれから いわてのトレセン 自分を見つめる時間

青少年赤十字の様々な活動の中で、最も特徴的なプログラムの一つが、「リーダーシップ・トレーニング・センター」です。県内各地の小・中・高生が、2泊3日の集団生活を共にしながら、リーダーとしてのレベルアップを目指します。

工夫と仕掛けに満ちた多彩な活動を通じて、気づき、考え、実行することの実際を味わい、子ども達は短期間で急激に変容していきます。個性豊かな仲間と過ごす時間は、自他の比較を促す効果があり、これまでの自分を見つめ直しながら、これから自分の在り方をも考えさせてくれます。

課題に対し主体的に取り組む子どもを育成する場として、また、JRC活動のネットワークづくりの場として、トレセンは大きな力を発揮します。

第1日「出会いと戸惑い」

講義「赤十字概論」

- ・赤十字の歴史と理念
- ・JRC活動の目標と実践例

グループワーク

- ・アイスブレイク
- ・出会いと仲間づくり

ホームルーム

- ・自己紹介、係分担
- ・3日間の目標と決意

講義「世界は今…」

- ・変動する国際情勢とその見方
- ・世界の子ども達の現状

第2日「覚悟と行動」

先見

- ・一日の見通し、行動プラン
- ・思考を深める一人の時間

健康安全プログラム

- ・応急処置の進め方
- ・心肺蘇生法の実際



第3日「決意と絆」

ホームルーム

- ・仲間の魅力、自分のよさ
- ・今後の決意



ワークショップ

- ・JRC活動の計画づくり
- ・想いを形へ、形を実践へ

フィールドワーク

- ・グループで行動、課題をクリア
- ・反省会でリーダー性を評価

講義「リーダーシップとは」

- ・理想とすべきは
- ・自分の可能性の再確認



出会いが発見をもたらし

挑戦が成長をうながす

青少年赤十字の3つの態度目標にトライ！

気づき

- ◇ 周囲のニーズに気づく
- ◇ 仲間のよさに気づく
- ◇ 自分の課題に気づく

考え

- ◇ ニーズに応えるために
- ◇ 仲間づくりのために
- ◇ 課題解決のために

実行する

- ◇ ボランタリー・サービス
- ◇ フィールドワーク
- ◇ ワークショップ

自分には
ほしいのは
やっぱり勇氣だ

あの人の話し方
って、いいよな

どうやったら上手く
話せるかな

もっとみんなの
ことを知りたいな

学校の挨拶運動を
盛り上げるぞ

この30分を
使って交流会だ

スタッフはこんなサポートをします

気づき待ちます

答の前にヒントを与えます

結果より過程や動機を大切にします

失敗も歓迎します

次への挑戦を促します

子どもたちの声（平成28年度参加者：小学生）

- ・自分で決めると失敗することもあるけれど、判断力がつくし、楽しかった。（小6）
- ・仲間と協力することで可能になることがたくさんあると思った。（小6）
- ・震災の不安に勝った人の話を直接聞いて、何があっても頑張れると思えるようになった。（小6）

子どもたちの声（平成28年度参加者：中学生）

- ・誰かのために何かをしてあげるのではなく、自分を活かしながら人と共に生活するという意識を持ちたい。（中2）
- ・平和のために私達が出来ること、それは毎日の暮らしからケンカやいじめなどの小さな戦いを無くすこと。（中2）
- ・僕は決意した。「このトレセンがなかつたら、今の自分はいない」と言えるようになろうと。（中2）

子どもたちの声（平成28年度参加者：高校生）

- ・心から世界や人について考えられたのは、仲間と楽しく過ごすことができたからだと思う。（高1）
- ・大事なのは「出来るか出来ないか」ではなく「やるかやらないか」だと気がついた。（高2）
- ・ふと気づいたことを、どうすればよいか考え、実行に移していくことが必要な態度だと気づいた。（高1）